

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

## 事業名 Gークレジット制度管理システム運用管理事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林活用推進課 森林吸収源対策係 電話番号：058-272-1111(内4347)

E-mail : c11513@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,660千円 (前年度予算額： 5,660千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	5,660	0	0	0	0	0	5,660	0
要求額	5,660	0	0	0	0	0	5,660	0
決定額								

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨（現状と課題）

Gークレジット制度の運営にあたり、クレジットの保有者や保有量、移転等の情報を適正に管理する必要がある。なお、クレジットは1t-CO<sub>2</sub>ごとにシリアル番号が付与されるが、数年内にはクレジットの認証量が1万t-CO<sub>2</sub>を超えると見込まれることから、表計算ソフトでの管理は限界がある。

また、プロジェクト計画書等を制度管理者（県）、運営事務局、審査機関の間で長期間（最長18年間）共有するとともに、計画書等の情報を誤りなくホームページで公開する必要がある。

いずれも人為的ミスの発生が許されない業務であり、手作業では膨大な事務量が発生することが予想される。このため、Gークレジット制度を適正かつ効率的に運営するためのシステムを導入する。

## (2) 事業内容

Gークレジット制度の運用にかかるシステムを開発し、運用管理を行う。

## ①Gークレジット制度管理システムの開発

- 申請書類の受付、申請情報の管理、クレジット口座の管理及びクレジットの移転・無効化の申請・管理等の機能を有するシステムを開発する。

## ②Gークレジット制度管理システムの運用・管理

- システムの運用、障害復旧、原因調査、分析を実施する。

## (3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

第4期森林づくり基本計画に基づく事業であり、「脱炭素社会ぎふ」の実現に資する事業でもあるため、県が負担することは妥当。

## (4) 類似事業の有無

無

### 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	5,660	G－クレジット制度管理システムの運用管理 G－クレジット制度管理システム改修委託業務
合計	5,660	

- ・ G－クレジット制度管理システムの運用管理

限度額（千円）	支払予定額（千円／年度）
29,650	R7～R11：4,560

- ・ G－クレジット制度管理システム改修委託業務 R7～R11：1,100千円／年度


### 4 参考事項

#### (1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
- ・第4期岐阜県森林づくり基本計画
- 第6章施策の柱ごとの主な取組み

##### 3 森林の新たな価値の創造と山村地域の振興

- (1) 森林空間等を活用した森林サービス産業の育成による山村振興
  - (ア) 新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業の育成
  - (d) 二酸化炭素吸収源としての森林の活用の推進

#### (2) 国・他県の状況

- ・国：J－クレジットにかかる電子システムの構築及び運用管理 (H25～)

#### (3) 後年度の財政負担

- ・クレジットを適切に管理し制度を効率的に運用するため、財源負担の継続が必要。

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
開発費	48,700	0	0	0	0	0	48,700
運用管理費	1,300	5,670	5,670	5,670	5,670	5,670	29,650
合計	50,000	5,670	5,670	5,670	5,670	5,670	78,350

#### (4) 事業主体及びその妥当性

- 1) 事業主体：県
- 2) 妥当性：県が運営する制度の管理システムであり、妥当である。

# 事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

前年度開発した、Gークレジット制度にかかる申請書類の受付、申請情報の管理、クレジット口座の申請・管理及びクレジットの移転・無効化等の情報を管理する機能を有するシステムについて、適切に運用管理する。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
プロジェクト登録件数	6	22	40	60	60	37%

### ○指標を設定することができない場合の理由

（記入用紙面）

### (これまでの取組内容と成果)

令和4年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和5年度	1 1月から制度の運用を開始し、説明会や広報に努め、6者がプロジェクトを登録した。
	指標① 目標：__10件__ 実績：__6件__ 達成率：__60%__ %
令和6年度	説明会や広報に努め、新たに16者がプロジェクトを登録した（累計22件）。
	指標① 目標：__25件__ 実績：__16件__ 達成率：__64%__

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

#### ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	健全で豊かな森林づくりと脱炭素社会づくりの実現に向け、カーボン・クレジット制度のニーズは高まっている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	制度に対する問い合わせ、プロジェクト登録の意向を示す事業者は増加しており、事業の成果は上がっている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	システムの開発により、事業の効率化が図られている。

### (今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項
- ・クレジットの管理等、Gークレジット制度の適切な運営

### (次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
- ・Gークレジット制度の運用には不可欠であり、次年度以降もシステムの運用管理を継続する。

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	